

子ども支援・特別支援研究会について

1 趣旨

本来、学齢期の子どもは、家庭と学校と地域に居場所をもち、安全で健やかな生活を送りながら、学校で学びを深め、人との関わりを通して青年へと成長し、社会の一員になっていくものである。しかしながら、一部の子どもたちは、不登校、引きこもり、虐待やネグレクト、問題行動や非行など様々な問題に直面したり、また問題を抱え込んだりしている。子どもが孤立したり、問題が深刻化したりする前に、必要な支援、適切な支援を行うことは、子どもに関わる大人たちの重要な責務である。

子どもに関わる大人は、それぞれの職や立場からできる支援を考え実行するとともに、より適切な資源につなげて支援のネットワークを広げる営みが必要である。子どもを真ん中に置いて、関係者がそれぞれの立場でできる支援を有効に紡いでいくことが、問題解決を促進し、子どもの成長と自立につながる力になる。

そこで、このたび、こうした問題に関心を寄せる教育と福祉の関係者が発起人となって、「特別な支援を要する子どもたちへの支援」の在り方について学び合う研究会を立ち上げることとした。

現実には起きている子どもの問題を直視し、事例研究を深めることをとおして子ども支援の質を高め、支援者のスキルアップを図るとともに、支援者の考え方のよりどころとなる研究組織を目指していく。

2 世話人 協力者

【世話人】

代表・朝日滋也
諏訪 徹
竹村睦子

中島 淳

東京都立大塚ろう学校統括校長
日本大学文理学部社会福祉学科教授
一般社団法人子ども・若者応援団代表理事
ソーシャルワーク事務所みらい ソーシャルワーカー
葛飾区・墨田区スクールソーシャルワーカー

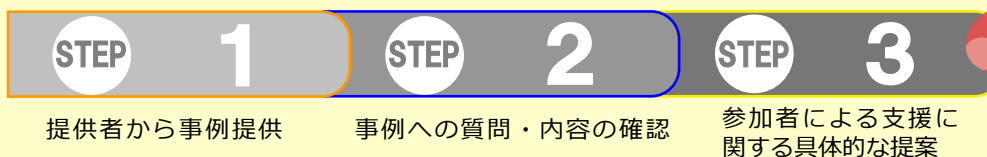
【協力者】

太田由加里
加藤憲司
草開宣晶
佐竹由利子
橋本顕嗣

日本大学文理学部社会福祉学科教授
葛飾区教育委員会事務局指導室長
世田谷区立用賀中学校校長
臨床心理士 公認心理士
町田市立忠生中学校校長

3 内容

- (1) 前回までのふりかえり
- (2) 事例検討



子ども支援・特別支援研究会を立ち上げてみて

この研究会もようやく1歳になりました。令和元年5月、日本大学文理学部の演習室をお借りして、子ども支援に関わる様々な職種の方が20名程度集まり、2か月に1回のゆっくりした歩みですが、続けることができました。

参加者は、立場も年齢層も様々です。教職員も小・中学校の担任から、特別支援学校のコーディネーター、特別支援学級や特別支援教室の担当、OB・OGまで幅広くいらっしゃいます。

スクール・ソーシャルワーカー（SSW）として実際に働いている方から、SSWを目指す学生さん、その育成に関わる大学教授。SSWといっても、教育委員会からの「派遣型」から、複数校を担当する方と、様々です。学童保育や放課後子ども教室のスタッフ、行政の福祉系の方、不登校等の居場所や適応教室のスタッフもいらっしゃいます。

皆さん、日々悩みながら、子どもや親御さんに関わっている（関わろうとしている）方なので、職種や立場の違う方の発言に、「なるほど」といった気付きがたくさん生まれます。これらを積み重ね、「子ども支援の考え方の拠り所」を追究している研究会です。

「もっと話したい」といった参加者の思いを受け、2年目は7月から「土曜日の夕刻」の開催とし、レポーターによる事例報告・協議の他に、ざっくばらんに日頃の悩みを共有したり支援のヒントを求めたりする時間ももちたいと考えています。まだまだ2年目の若い研究会ですので、進め方も柔軟に、有益な時間にしたいと考えております。ぜひ一度、参加してみてください。

【世話人・代表 朝日 滋也】